

ネイサン旋風の残したもの

View from Down Under

文・写真 ハイランド真理子
(オーストラリア在住)

セレクトセールに参加したパティナックF

パティナックファームの総帥ネイサン・ティンクラーク氏が日本にやって来たという話は、オーストラリアだけでなく、各国の競馬関係のメディアが大きく取り上げ、世界中を駆け巡った。ネイサンが参加を表明し、日本人の私が案内役をかねて連れて行くことになった、2008年セレクトセール。シドニー空港で、アローフィールド牧場の関係者と会った時には、これは、すぐオーストラリアに知れ渡るのではないかとこの予感があったけれど、正直言ってこのように大きな話題になるとは思っていなかった。

さて、セレクトセール1日目のイヤリングセールで、立て続けに5頭を買ったネイサン・ティンクラーク氏に、度肝を抜かれた日本のマスコミも多かったのではないだろうか。普段インタビューには自分で応じることのないネイサンに代わって私が受けていたが、詳細はその日発売の週刊競馬ブック(7月14日発売のView From Down Under)を見てくれと言った時には、ちょっとだけ自慢したい気になった。

ネイサンは、北海道に着いた時に彼を招待した吉田勝己氏が空港まで出迎えてくれたこと、さらに、氏自らノーザンファームを案内してくれたことに、大変感激していたようだ。なぜなら、勝己氏は、彼の20年間に渡るオーストラリアでの軽種馬生産や競走馬事業の成功で、オーストラリアの誰もが知っている超有名人だったからである。その有名人自らが示した、心からのホスピタリティに感動したと語っていた。

何日か一緒にいる間に、ネイサンは、単なる気まぐれな金持ちではないことに気がついた。血統にも強く、オーストラリアにわざわざいるサンデーサイレンス血統馬の動きも知っていたし、とりわけヨーロッパやアメリカの血統には強い関心をみせる。日本の競馬場にはまだ行ったことがないので、次にはぜひ行ってみたいと意欲をみせ、また、美浦トレーニングセンターの英文のパンフを見た時には、その規模や充実した施設にかなりショックを受けていた様子だった。8月にはまた日本に来ると言い、セールを1日残してオーストラリアに戻った。

私もオーストラリアに帰国してから、今回のセレクトセールに関連する英文のニュースを探してみた。英国、アメリカから、南

アフリカ、そして地元オーストラリアまで、競馬関連の記事は、ネイサン・ティンクラーク氏の動きを詳細に伝えていた。今回、オーストラリアのメディアは来ていなかったため、オーストラリアには英国経由でニュースが入った。アグネスタキオンとシルクプリマドンナの1歳牡馬を買ったことも報道されていた。余談になるが、アグネスタキオンは確かに日本のリーディングサイアーではあるが、凱旋門賞に出走したディープリンパクトほど、海外に広く知られていたわけではなかったから、今回、ネイサンがアグネスタキオンの良血馬を買ったことで、その名前を世界的にした感じがある。

ところで、このアグネスタキオンの牡馬は、将来の種牡馬候補として買われている。日本の馬が、外国人によって、将来種牡馬にしたいという積極的な意志で買われたのは、初めてではないだろうか。当然シャトルも視野に入れているだろう。一方、ディープリンパクトの当歳牝馬は、日本の競馬で使いたいと語った。ちょうど、JRAから外国人(国内非居住者)馬主の認可が間近というニュースが流れていたから、これまたタイムリーな話題になった。

セリを活性化させる外国人バイヤー

今回は、セレクトセールを、これまでとちょっと異なる海外バイヤーの立場から見るのが出来たが、やはり、このセリが、世界を代表するセリであることを改めて認識した。会場になったノーザンホースパークの充実した施設、その美しさ、そして見事なスタッフの動き。恥ずかしながら私は、オーストラリアとニュージーランドのセリか知らないが、セレクトセールのクオリティーの高さと海外バイヤーへ

の対応は、それらに勝るとも劣らないものだったと言える。しかし、ネイサン・ティンクラーク氏もセリ場で語ったように、当歳にお金をかけるのは自信がないという海外のバイヤーはかなり多い。それを見越して、一昨年からイヤリングをセレクトセールに復活させたのだと思うが、今後は、この枠をもっと多くして、例えば2日間に渡ってのイヤリングセールにして欲しいと思う。そうすれば、オーストラリアからだけでなく、更に、多くの海外のバイヤーがセレクトセールにやってくるであろう。

ただし、日本の他のセリが、海外からのバイヤーを求めるときには、セレクトセール並みの受け入れ態勢やサービスを用意する必要があるだろう。すぐに同レベルまでとはいかなくても、英文のセリ名簿を用意するのはもちろんのこと、英語でコミュニケーションができるスタッフを養成する必要もありそうだ。見せる工夫や、セリの参加者が楽しくなるようなエンタメ的なものも考える必要があるだろう。

外国人馬主は、日本の生産界にとってダメージだという狭い考えを捨てなくてはならない時代がやってきた。外国人に馬主資格が開放されるということは、外国人のバイヤーが増え、ダメージどころか、不振といわれる日本の軽種馬生産界の救世主になるのではないかと思うのだが、どうだろう。

セレクトセールのオープニングで、河野太郎日本競走馬協会会長が、「日本の安い円でぜひショッピングを楽しんでください」とジョークを交えて英語でスピーチをした。ピンチの時はチャンスである。日本円が安いときには、外国人バイヤーを呼びこむ絶好の機会であることを、河野氏はよく理解しているのだと思う。セレクトセールの後に、オーストラリアに電話したら、オーストラリアを代表するオーナーたちが、「来年は、セレクトセールにぜひ行きたい」と言っていた。ネイサン旋風は、日本の生産界に好影響を与えたと思う。

Patinack Farm acts on bold plan to go global



オーストラリアの新聞にも大きく取り上げられた、パティナックファームのセレクトセール参加



取材を受けるN.ティンクラーク氏(右端)。でも、インタビューに答えるのは、もっぱら私(右から2人目)